

リーディングDXスクール事業【GIGA×指導の工夫・改善】

長崎市立西泊中学校

【GIGA×指導の工夫・改善】 ICT（フォームやAIドリル等）を活用した形成的評価と個に応じた丁寧な指導

<考察>

フォームやAIドリルを利用し、授業の導入や授業の中盤において形成的評価を行うことで、瞬時に学習状況の把握や生徒へのフィードバックを行い、個に応じた課題の提供を行うことができる。紙媒体を使った小テストでは、配付、テスト、採点、回収、名簿への記入、分析と、時間や労力を要するが、ICTを活用するとそれが瞬時にできる。これはICTの強みといえる。ICTを活用した形成的評価と個に応じた丁寧な指導により次の効果が実感できた。

～生徒～

- 自分の学習状況を正確にとらえ、つまづきや原因を把握することができる。
- 自分の習得度に合わせた問題を選択することで主体的に学習を進めることができる。

～教師～

- 授業の導入において、生徒のレディネスを把握し、本時の学習に必要な既習内容の定着状況を把握することができる。
- 生徒の学習状況を正確にとらえ、個に応じた課題を提供することができる。
- 生徒の習得状況を正確にとらえ、授業の方向性の修正や授業改善を行うことができる。

形成的評価にICTを活用する授業モデルを提案し、共通実践した。

西泊中ICT活用授業モデル

～授業前の準備～

- ①学習指導要領に沿って本時で達成されるべき目標を明らかにする。
- ②すべての生徒が達成すべき最低到達基準（評価基準B）を定める。
- ③ICT活用場面を設定し、教材の準備を行う。

～本時の授業の流れ～

- ①**形成的評価1** フォーム等で本時の学習に必要なレディネスを把握する。
※本時の学習に必要なレディネスに達していない場合は、既習内容とのつながりについて説明したり、本時の学習に必要な既習内容の説明を行ったりする。
- ②**めあての提示**
生徒が「学びたい」と思う魅力あるめあてにする。
- ③**本時の内容の教授・学習・練習・作業等**
※一人では理解や作業が難しい場合や個々の到達度に差がある場合は、協働的に課題を解決させる学習を仕組む。★協働的な学び
- ④**形成的評価2** フォーム等で生徒の理解度・定着度を把握する。
※生徒の到達度を把握→生徒には結果のフィードバックを与える。
- ⑤**生徒の達成状況に応じた課題の提示** ★個別最適な学び
- ⑥**本時のまとめ**
目標、めあてとの整合性！

～授業後～

評価基準に照らして、生徒がどの程度到達しているかを評価する。ICT活用の効果の検証。